

2024. 12.16 No.4

## HIOKI財団 通信

HIOKI奨学・緑化基金 事務局

## 心をもって心に応える

公益財団法人HIOKI奨学・緑化基金  
理事 藤本光世

私は、HIOKI 奨学・緑化基金の、見返りを求めず、注文も付けずに日本の理工系の技術者や研究者の育成のために、多額の奨学金を給付するという貴い社会貢献に、多大な敬意をはらうと共に、理事を担わせていただいていることを大きな荣誉と受け止めています。そして、この篤志を高校生に知ってもらい、HIOKI 奨学・緑化基金の心をわが心と受け止めて大学生を送る人材が大勢輩出されることを願っています。

高校教育の現場で長く働いてきて、人はしっかりした心を持つことが何よりも重要と感じています。しっかりした心とはどんな心でしょうか。それは、謙虚な心であり、感謝の心であり、誘惑に負けない心であり、自律の心であり、自主独立の心であり、真理を貴ぶ心であり、自由を貴ぶ心であり、おもいやりの心であり、困難に挑戦する心であります。心がしっかりしないと、いくら高い能力を持っていても、能力は悪い道に使われるか、あるいは身を滅ぼし、極端に言えば世界を滅ぼす場合さえあるのです。

しっかりした心はどうすれば持つことができるのでしょうか。実は人は誰もがもともとしっかりした心を持っているのです。しかし、それはさまざまな誘惑や享楽や私利私欲が渦巻いている環境では表れないのです。善い環境に身を置くことこそ重要です。そして、しっかりした心を持った人々の善き輪に入ることです。そして善き友、善き仲間、善き人々と切磋琢磨して生きることです。私は、高校の校長として学校経営に携わり、学校の活性化は生徒の心をしっかりさせることによってのみ可能であり、それは生徒の可能性を存分に拓き、生徒が社会貢献を通して力強く生きることにつながることを事実で示してきました。

実は、HIOKI 奨学・緑化基金こそ「善き輪」です。奨学金を受けた皆さんは、HIOKI の心をわが心として生涯を過ごし、その心をもって HIOKI に恩返しをしてほしいと思います。元副代表理事の中沢賢さんが HIOKI 財団通信で書いている「どうかあなたの勉学の援助をしてくださった企業・財団の篤志を深く理解していただきたい。そして各自個性に応じた何らかの意味の社会貢献を生き甲斐の一つにしていいただきたい」はこのことなのです。

私は、HIOKI 奨学・緑化基金が多く的高校生に認知されることを願います。そして奨学生に応募して、日本の科学技術の振興に貢献しようという意欲をもって高校生活を送ろうとする生徒が増えることを願っています。そうなれば、HIOKI 奨学・緑化基金は、長野県の高校生の心をしっかりさせ、生徒の高校生活を変える力になるでしょう。財団はそれほど大きな可能性を秘めています。

## ◆藤本理事 Profile

35年間長野県高等学校教員を勤める。その間、大本山永平寺で修行を経験。

平成10年から長野南高等学校校長、松本深志高等学校校長、上田高等学校校長、佐久長聖中学高等学校校長を歴任、平成18年11月長野県高等学校長会会長就任。

平成20年10月からは円福寺愛育園理事長、社会福祉法人円福会理事長、学校法人円福学園理事長、曹洞宗円福寺住職。

また、ボランティアでカンボジアの学校建設や深井戸建設に取り組む。



(写真：カンボジアで学校農園を通じて  
農業支援をしている小学校の子どもたちと)

## 奨学金給付、博士課程でも！

これまで、本財団奨学基金では、大学院修士課程の学生に対して、奨学生選考に合格した学生には、2年間に月額8万円の奨学金が給付されてきました。

2025年度より、さらに博士課程にも給付範囲が広がります。博士課程に進学する修士課程奨学生で給付継続願を提出し審査に合格した院生は、博士課程3年間においても月額8万円の奨学金が給付されることになりました。定員は若干名で、2025年度は優秀な学業が認められた2名が合格しました。

今後も、奨学生の皆さんが意欲的に学びを深め、自己の才能をさらに伸長されることを期待しています。

◇奨学生の皆さんの「近況」からご紹介します。

千葉大学 工学部 1年 Y.Yさん

学業においては、学部1年の後期がはじまり授業にも慣れてきました。前期では、理工系の基礎科目となる微積分学や線形代数、力学基礎をはじめとして、専門の基礎となる化学基礎では、電子軌道や波動関数といった内容も学びました。波動方程式などは、後期が始まり、数学で偏微分などを学んだことで、ある程度理解できるようになってきましたが、まだ難しさを感じています。英語では、前期思うように勉強ができませんでした。後期ではコンピュータを用いて千葉大独自の教材を使用するCALLという授業を履修しており、とても勉強しやすく前期よりも成長を感じています。

学業以外の面では、跆拳道という部活動に所属しており、週に4日活動しています。礼儀や関係者への感謝を重視しており、また技術的にも体の動かし方についてとても追究されている武道で、心身ともに成長できていることを実感しています。週4日と比較的頻度の多い部活動ではありますが、学業への支障は特になく、奨学金の支えもありアルバイトも最低限で済んでおり、非常に感謝しております。

九州大学 理学部 1年 R.Iさん

私が在学している大学では、学部1年生の前期では基幹教育科目という科目を中心に学びました。理系科目だけではなく、文系科目も幅広く学び、心理学と文化人類学を学びました。私は現在寮に住んでいて留学生の方と接する機会が多いのですが、特に文化人類学を学んだことで、ただ文化が違うというだけで終わるのではなく、そこから自文化を内省的に考えられるようになりました。

理系科目では2年生から中心的に学ぶ専攻科目に向けて基本的な内容を学びました。特に微分積分学の授業では教授自身が学生時代物理専攻だったこともあり、物理の本質を考える上で重要な概念や話をたくさん下さりとても有意義な時間でした。

また授業だけではなく友人とゼミを開き、輪講形式で専門書を1冊読み切りました。後期はこのゼミを積極的に開き、たくさんの専門書に触れて自身の世界の見方を広げたいと思いました。

東北大学 工学部 2年 A.Mさん

2年生に進級してからは専門科目の講義が増加しました。自分が勉強したいと考えていた内容を深く学べることに喜びを感じる一方で、講義の難易度も上がり内容の習得に苦労しました。しかし、教授が講義内容がどう社会に役立つのかや研究の話を交えて説明してくださるため、単に知識を詰め込むだけでなく高いモチベーションで勉学に取り組むことができています。3年生からは実験も始まるため2年後期も基礎となる知識をしっかりと習得したいです。

勉強以外では貴重な大学生活を有意義に過ごしたいと思い、興味を持ったことに積極的に挑戦することを意識して生活しました。留学生との交流イベントや東日本大震災のボランティア活動に参加したり、フロアボールサークルでスポーツに打ち込んだりと、それぞれの活動を通じてコミュニケーションの取り方や自分の将来について考える機会が増え、成長を実感しています。今後も自分と向き合いながら勉学に励み、将来やりたいことを明確化していきたいです。

## 東京大学 理科二類 2年 R.K さん

2年の春、夏学期は必修の授業が少なく、自分の興味のある科目を履修して教養を深めたりして自分の進路をじっくりと考える時期となりました。

語学に関しては一年の時に必修として履修していたドイツ語を使って文学を読む授業や韓国語の会話の授業を履修し、英語圏以外の文化に触れることができました。

また夏季休暇中には大学主催の体験活動プログラムとして、アフリカのケニアへ行き、しばしば貧困や治安の悪さと言った負の側面が強調されがちなアフリカの現状を実際に見て学びました。ケニアでは、汚職などにより大学を出てもコネがなければ就職先が見つかりにくいという問題を抱える現地の若者たちと、日本とケニアの違いや現状を改善するために何ができるかについて対話したり、滞在中にテロ注意報が出るという体験をしたり、水を得るために子供達が水汲みに行く様子を目にしたりするなど、安全性や公平性、インフラに関する問題点を実感しました。

また、現地で NPO 法人の活動を行う方、現地の日本企業でインターンをしている大学生の方、ツアーと一緒に参加した起業家の方など、グローバルな生き方をする日本人の方々と共に過ごし、海外で問題解決のために自分から行動を起こして活動する、という具体的な生き方をイメージでき、自分の進路を考える上で大きな糧になりました。

## 信州大学 工学部 3年 H.W さん

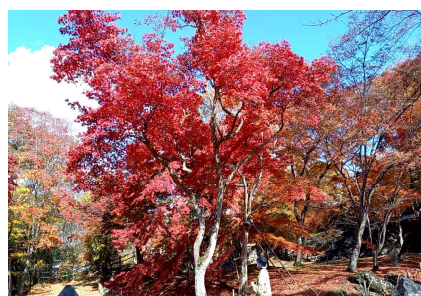
3年生前期は、今までよりいっそう勉強に励み、充実した時間を過ごすことができました。前期では、生物化学や有機化学の学生実験を行い、実践的な学びを深めました。最近では生物化学に興味を持っています。

前期の学生実験では、実際に自分の髪の毛から得た遺伝子を用いてその DNA の性質から、お酒の強さを調べるといった興味深い実験を行うことができました。さらに、生物と有機化学における専門的な化学の講義にも積極的に取り組みました。試験勉強にも力を入れた結果、自分自身が納得できる成績を収めることができました。

10 月から始まった後期においては、3 つのコース選択がありましたが、自分の希望通りバイオコースに進むことになりました。

今後もこれまでの学びを生かしつつ、さらに専門知識を深めていくとともに、今後の研究や卒業後の進路に向けて準備したいと考えています。

卒業後は、信州大学大学院進学を考えています。



## 北海道大学 工学部 4年 T.N さん

大学での学びに関しては、教職課程を除けばすべての単位を取得し終えたため講義はほとんどなく、その分自身の卒業研究に時間を費やしていました。

毎日のように研究室に赴いて作業を行っていて忙しいですが、その分とても充実した日々を過ごしています。また、アクセンチュア株式会社と共に9月いっぱいハッカソンを行いました。こちらは半導体などのハードウェア方面の開発と AI などのソフトウェア方面の開発、そしてビジネスプランとしての企画のブラッシュアップまでを一人で行うという経験ができ、将来の自分に生きるスキルを取得できたと確信しています。

さらに、12 月には東京ビックサイトで行われる SEMICON2024 に研究室の同期と共に5人で出展させていただけることになり、イベント

期間中に積極的に企業出展を観覧したりお話を伺うなどして半導体関連企業の方々と交流を深めようと思っています。

卒業後は、北海道大学大学院に進学します。